

上田西高校の新年度スタート

千西一遇

第51号
発行
2018年
5月25日
上田西高校
新聞委員会
編集局長
下形亮人

平成30年度も多くの新入生を迎え様々な行事を実施



今年度の活動方針を話す西高祭実行委員長の伊藤佳奈さん。生徒会総合本部役員の提案に対して、今年も様々な意見、質問が飛び出した。 撮影＝奈良本梓

生徒総会で活発な意見交換

4月17日(火)2、3時間目に、平成30年度生徒総会が行われた。生徒総会とは、その年の生徒会をどのように運営し活動していくかを全校生徒に知ってもらい、また、全校生徒に意見してもらったための会である。今年の生徒総会では、前年度の反省を生かし、質問を生徒会役員が事前にわかるようにし、用紙に意見を

まとめた。その成果を生徒総会統括の横関大輝さんは「会がスムーズにまとまった」と述べた。

質疑応答では多くの意見が飛び出した。一年生からの質問では、「図書館の利用時期について」、「二、三年生からは「西高祭や体育祭の期間」などが出たが、生徒会役員が落着いて答弁した。

生徒総会を終えて、今後の生徒会活動について、統括の中山侑哉さんは、「会長中心に去年にはなかった色々な行事、企画をやっている生徒の声をより集めたものにした」と述べた。6月には西高祭もある。生徒総会で承認を受けた生徒会役員の提案がしっかりと行われるかに注目が集まる。(高田ちとせ)

339名の新入生

ようこそ上田西高校へ

4月5日(木)に入式が行われた。今年の新入生は339名だ。式後、新入生に取材を行った。サッカー部に入部すると話す百瀬光幸さんは、「全国大会に出場することを目標に学校生活ではサッカーを頑張る」。中学時代に美術部だった西澤彩花さんは、「中学では勉強と部活を両立できなかったが高校で



入式後の学級開きの様子。各担任は学級経営方針などを力強く話した。撮影＝望月かれん

リーダー研修会

クラスをまとめるために

本年度は焼肉を実施せず

4月22日(日)にリーダー研修会が行われた。リーダー研修会(通称リー研)は生徒会が主催していて、各クラスのルーム長や副ルーム長などを対象にリーダーとしての心構えを学ぶもので、毎年恒例となっている。今年の参加人数は過去最多の83人であった。毎年リー研で恒例であった学年の域を超えて行うバーベキューが今年からなくなり、

会はずっと続いた。この理由について生徒会係主任の長井聡先生は「本来に必要とされることはなにかを考えた結果」と話した。

会では上田情報ビジネス専門学校校の丸山めぐみ先生の話

を聞いて、リーダーシップや話し合いをする際の注意点、目標の作り方を学んだ。また、いくつかの班に分かれて一つのテーマに対して意見交換を行ったほか、西高祭についての説明もあった。昨年も参加したという2年8組の副ルーム長、黒澤葵さんは「どのよう



リーダー研修会の様子 撮影＝望月かれん

に皆をまとめて企画を決めればよいのかを学ぶことができた」と話した。2年3組の副ルーム長の堀内虹希さんは「リーダーとしてみんなを引っ張るとき、自分の事をやっ

(下谷 梓)

対面式で初顔合わせ

4月6日(水)に生徒会による対面式が体育館で行われた。対面式では初めて新入生と在校生が対面した。毎年のことであるが、新入生が先輩たちの盛大な拍手に迎えられながら期待と不安が入り混じった表情で入場する様子が窺えた。

新入生入場後すぐに上田西高校恒例の生徒会役員による

太鼓の演奏が始まり、対面式のスタートが切られた。対面式の統括かつ生徒会長でもある若本麻央さんは自ら運営した対面式について、「大きなミスがあったが最後までやり抜くことが出来た。これから行われる行事において細かいミスを減らしていきたい。また、よかった点は来年度の生徒会にも引き継いで

は両立できるように頑張る、苦しい実物を描くことを上手になりたい」。バトンミント部に入部予定の小宮山雄大さんは、「生活面では部活などを一日を大切にしながら一生懸命取り組む。学習面では勉強がついていけるか心配だが、わからないところがあつたらそれをなくし、一回一回の学習の質を高めていきたい」。特進コースの中島由紀子さんは、「学校生活では部活に入る予定はなく主に勉強を頑張る。授業についていけるかどうか心配だが、自分のわからないところをなくし、周りの人にも教えられるように家で勉強したい」とそれぞれ話した。

いずれも高校生活に期待と不安を抱く様子が窺えたが、それぞれが活躍できるフィールドで頑張っていこうとする様子が見て取れた。上田西高校では生徒が輝くための「ステージ」が多く設定されていて各々が輝くための環境は整備されている。新入生が学校の顔として活躍する日もそう遠くないだろう。(奈良本梓)

編集後記

千西一遇51号をお読みいただきありがとうございます。本年度も多くの新入生を迎え学校が活気づいているように思います。編集局では西高生の活躍を発信できるように頑張りたいと思いますので、取材等を快く引き受けてもらえると助かります。(一同)



ツイッターでも情報発信をしています。